

WCRP

3

2024
March

No. 533

World Conference of Religions for Peace Japan



第2回東京平和円卓会議 増上寺を訪れた参加者たち

こころの扉—「被災地の祭礼の復興に向けて」 藤本頼生	2
「戦争を超え、和解へ」 諸宗教平和円卓会議	
第2回東京平和円卓会議開催される	3~6
新春学習会パネルディスカッション.....	7
平和研究所 第8回研究会 ホアン・マシア所員.....	7
新役員紹介	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動	8



「被災地の祭礼の復興に向けて」

甚大な被害をもたらした能登半島地震の発生から三か月近くを経ました。WCRP日本委員会でも、被災された避難生活を余儀なくされている方々に対して物資等の緊急支援をはじめ、連携団体とともに協力しながら被災者への心のケアを重視した救援活動が続けられているところですが、まずは此度の地震被災された方々に対し、謹んでお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧、復興を願う次第です。

今回の能登半島地震で大きな被害を受けた被災地で

WCRP日本委員会
研究所教授
平和研究大学院
平國學院

藤本頼生



は、例年であれば、節分後の二月六日に輪島市の鬼屋神明宮で五穀豊穣を願って斎行されるぞんべら祭りが行われると、同九日に奥能登の各農家で行われる民俗行事のアエノコトで田の神を田へ送り出した後、三月十八日（二十三日）に羽咋・鹿島郡内の二市五町をめぐる平国祭が終わると能登地方に春が来るといわれています。過去の震災でも社寺の祭礼の復活は、被災地の住民にとって希望の灯の一つとなってきましたが、今回の被災地域の多くは少子高齢化と人口減少が著しく進んできた地域でも

あり、地震の被災による能登地域での深刻な被害が、地域文化の柱となってきた様々な祭礼を停滞・断絶させるのではないかと危惧しています。とくに能登地方といえは、千年の伝統を誇る七尾市の青柏祭をはじめ、旧中島町のお熊甲祭り、能登島向田町の火祭り、能登町のあばれ祭など歴史が古く全国的にも著名な祭礼も多い一方、近年では同地方の神社において夏から初秋の祭りの象徴ともいえるべき、巨大な風流灯籠であるキリコの担ぎ出しが過疎化によって維持困難となった地域があるとも伺っています。こうした各祭礼・民俗行事は、当該地域の人々の紐帯ともいえるべき存在です。能登地域は古くから神仏への信仰心の篤い地域だけに、人々の精神風土の回復に向けて社寺を中心とした被災地の祭礼行事への支援を行うことも復興の大きな手助けとなるものと考えています。労働と休息、生産と消費といった淡々とした日常生活のなかで、緩衝帯として機能しているのが、ハレの日ともいえるべき祭りや諸種の習俗儀礼であり、祭りは人々の活力の源泉です。これらが被災地の人々の暮らしのリズムとして一日も早く復活し、日常生活のなかにうまく統合・調和できるよう、各々の宗教者のみならず宗教団体からもできることを模索していかなければならないでしょう。

幸せな世界を目指して活動する宗教者の根底にあるのは、神々や仏への不断の祈りです。このたびの震災の被災地の祭礼復興への支援はもとより、これからの戦争や災害などによって様々な苦難に悩む人々を救うための継続的な支援がなされていくことを願ってやみません。

「戦争を超え、和解へ」諸宗教平和円卓会議
第2回東京平和円卓会議開催される

「戦争を超え、和解へ」諸宗教平和円卓会議の第2回東京平和円卓会議が、WCRP国際委員会、同日本委員会、国連文明の同盟の共催により2月18日から21日にかけて



東京都内で開催された。紛争地域の宗教指導者ら16カ国から約100人が参加した。

このたびの第2回円卓会議は、2022年に開かれた第1回円卓会議の「宗教者が平和構築の架け橋になること」「戦争で引き裂かれたコミュニティを癒していく責任があること」「宗教者間の協力を促進するために対話を継続すること」をうたった声明文に基づいて開催されたものである。

2月18日は歓迎夕食会が開かれ、三宅光雄評議員（金光教泉尾教会教会長）があいさつに立ち、紛争の渦中にて厳しい状況の中、平和に向けた話し合いのために来日した出席者に対して歓迎の意を表した。

2月19日午前のプログラムは、大西英玄理事による平和の祈りから会合が始まった。その後の「2022年の第1回東京平和円卓会議とその後の振り返り」セッションでは、ロシア、ウクライナ、ミャンマー、日本の第1回円卓会議出席者による紛争状況の現状や宗教者・宗教組織が果たしている平和活動について報告がなされ、出席者全員による意見交換が行われた。

19日午後の開会式では、開会の祈りを黒住宗道理事（黒住教教主）が行い、戸松義晴理事長のモデレーター（進行役）のもとに進めた。歓迎あいさつに立った杉谷義純

評議員（天台宗妙法院門跡門主）は、厳しい国際情勢に触れながら、「それぞれの宗教が堅持する信念を共有し合い、宗教者が協力・連携を深める中においてこそ、この厳しい状況に光明が見出せる道が拓けていくものと、私は信じる者です」と語り、第2回円卓会議への期待を寄せた。またWCRP国際委員会のエマニュエル・アダマクス

共同議長は、「地球上のあらゆる場所で、平和と安定の柱



和と安定の柱がまさに包囲されている： 私たちの傷を癒し、明るい未来を創造するために、和解の務めに全力を尽くすことを再確認し

よう」と呼びかけた。ミゲル・アンヘル・モラティノス国連事務次長は、この円卓会議が平和構築において非常に価値のあるプラットフォームであり、宗教者は人々やコミュニティに密接に関わっているために重要な役割があると述べ、国連と共に「前向きな変化をもたらし、社会の統合と人権、人間の尊厳を守りましょう」と語った。WCRP 国際活動支援議員懇談会の岡田克也共同代表は「憎しみや敵意の武装を解除するWCRPの役割が求められており、その活動に大いに期待する。宗教者の皆さんが得られた成果を建設的な政策提言に活かして参りたい」と表明した。

開会式の後に開かれたセッション1では、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、中南米・カリブ地域、中東の五つの地域における紛争状況に関して議論を行った。その後のセッション2では、諸宗教の連携による紛争和解の具体的な事例が、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、中南米・カリブ海におけるWCRPの各地域組織の事務総長から紹介された。紛争予防、紛争中における対

応、紛争後の癒しと和解における宗教者の役割について話し合われた。

2月20日は、出席者全員で東京における宗教施設の訪問と日本の文化体験を行った。午前中は日枝神社と増上寺を訪問し、日本の宗教の一つの特徴である和の精神を学んだ。午後は、大本東京本部を訪れ茶道体験、能鑑賞を行い、古くから伝わる日本の伝統文化に触れた。出席者全員がこのよ

うな共有体験をもつことで、会議だけでは得られない新たな観点による相互理解が促進された。

その後、衆議院第一議員会館国際会議室で、WCRP 国際活動支援議員懇談会と国際ICC推進議員連盟に関する国会議員の



日枝神社(上)と大本東京本部で茶道体験



衆議院第一議員会館で国会議員との対話

対話プログラムを行った。国会議員約10人との意見交換では、紛争解決にあたっては政治的役割が決定的に重要であるこ

とから、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)への支援やウクライナの農産物や工業製品の輸出に関すること等、様々な政治的課題に関する要望・意見が表明された。

最終日の21日は、天台宗の小林祖承総務部長の祈りからプログラムが開始された。午前中はグループ討議と全体会議が行われ、今後の具体的な平和構築の実践について話し合われた。そして、話し合いの成果として声明文を作成し全員で採択した。

午後に行われた閉会式では、日本委員会女性部会の河田尚子副部会長(アル・アマーナ代表)が祈りを務めた。最初にエマニュ



フランシス・クーリア・カゲマ事務総長

エル・アダマキス共同議長によって声明文が読み上げられた。モデレーターのアラン・シス・クーリア・カゲマ国際委員会事務総長は、「宗教の力によって分断を克服し、和解に導くことができる。WCRPとして声明文の内容を着実に実行していきたい」と語った。あいさつに立った国際委員会の庭野光祥共同議長（立正佼成会次代会長）は「私たちは、共に歩み続けなくてはなりません。歩み出すための細い道筋を共に見つけ出さなければいけません。3日目、最終日の今日は、そのための道筋を皆様と共に議論し、それぞれの主張が全面的に受け入れられたわけではないにしろ、次のステップを見いだすことができたことを、私は皆様に感謝したい」と述べた。閉会式終了後、記者会見が行われた。

声明文（仮訳）

私たち、コロンビア、ハイチ、インド、イスラエル、日本、ケニア、マリ、ミャンマー、パレスチナ、ペルー、ロシア、スペイン、トルコ、ウクライナ、米国の宗教指導者および多様な信仰、団体、宗教組織（仏教、キリスト教、ヒンドゥー教、イスラーム、ユダヤ教）の代表は、現在も紛争や戦争が続いている地域から、より平和で公正かつ包括的な社会のために、信頼を築き、分断を癒し、赦しと和解を育むために、第2回東京平和円卓会議に集いました。

私たちは、ハイチ、中東、ミャンマー、ウクライナなど、世界中の紛争地域で人々が想像を絶する苦しみを強いられていることを、深く憂慮しています。

私たちは、世界のあらゆる地域において、平和と安全の基盤が脅かされている一方で、最も弱い立場にある人々、すなわち女性や子どもたち、社会から疎外された人々が、砲火に巻き込まれ、激しい暴力、強制退去、その他の人権侵害に不当に苦しんでいることを認識しています。

私たちは、それぞれの宗教や信仰の神聖な教えに触発され、平和に向けた諸宗教のビジョンを一つにし、橋渡し役や平和構築者としての役割を果たし、戦争で引き裂かれたコミュニティで和解と良好な関係を育むという共通の責任において団結します。

私たちは、互いに同じテーブルにつけたこと、そしてこの諸宗教平和円卓会議に私たちを招集し、主催してくださったWCRP / RfP 国際委員会、同日本委員会、国連文明の同盟に感謝します。

第1回東京平和円卓会議での重要な学びを踏まえ、私たちは有意義な対話を行い、現在進行中の紛争や、癒しと和解に向けた諸宗教の行動に常に立ちはだかる障壁に対処するための考察と提言を交換しました。

私たちは皆、一つの人類家族の一員であり、幸福の分かち合いと人類の繁栄のための行動を推進するという集団的責務を負っていることを再確認します。私たちは、戦争と暴力は、生命の神聖さと人間の尊厳を守るといふ聖なる原則に

反するものと認識し、戦争と暴力を強く非難します。

多様な信仰を代表する宗教指導者として、私たちは集団として次のことを確認します。

- ・すべての人間は生まれながらに自由であり、尊厳と権利において平等であることを認識し、生命の神聖さと人間の尊厳は、常に維持され、保護されなければならない
- ・宗教指導者は、積極的平和を育み、私たちが共有する人間性と幸福に対する思いやりと理解を促進するという共通の責任を有している
- ・紛争の影響を受けている人々への人道支援は、政治とは切り離され、平和、安全、正義、人間の尊厳の回復を基盤とするものでなければならない

私たちは共に、次のことを呼びかけます。

- ・現在進行中のすべての戦争、紛争、そして核兵器、通常兵器、サイバー兵器、即席爆発装置を含む暴力と兵器の使用を停止および転換させること。それは生命の神聖さと人間の尊厳を維持し保護するという平和的手段によって紛争を解決するという私たちの集団的責務

に基づくものである

- ・戦争や紛争の時でも、平和と調和が保たれている時でも、礼拝所や聖地の神聖さと安全かつ自由なアクセスを維持し、保護すること
- ・積極的平和の推進に向けたすべての宗教・信仰コミュニティと各界関係者の協力・信頼を築き、知恵を分かち合い、宗教間の協力と調和を育むために、紛争のあらゆる側から宗教指導者や市民社会、メディアを含むその他の各界関係者を招集して行う諸宗教の平和への対話の継続

諸宗教による平和のビジョン実現に向けて、私たちは共同して次の行動に取り組みます。

- ・橋渡し役として、また平和構築者として、激しい暴力、強制退去、その他の人権侵害に対処するための共通の行動において、誰一人取り残されることのないよう協力する
- ・私たちの宗教的資産とコミュニティを動員し、子どもたちやその他の弱い立場にある人々を含めて、戦争で引き裂かれたコミュニティに人道支援を提供し、共通善と私たちの共通の家（地球）保護のために、宗教間の協力を推進する

・幸福の分かち合いと人類の繁栄のための共通の行動を推進するために、女性や若者を含む

- ・戦争と暴力の再発と長期化を回避するため、癒しと和解のための長期的なプロセスを通じて、積極的平和を構築する
- ・暴力、虐待、搾取、その他の人権侵害を生み出す上述の紛争や戦争によって傷つけられ、引き離された家族やコミュニティの団結と癒しを促進する

・より平和で公正かつ包括的な社会のために、信頼を築き、分断を癒し、赦しと和解を促進するため、諸宗教平和円卓会議を引き続き開催する

私たち宗教指導者は、現在進行中の戦争と暴力の過酷な状況に苦しんでいる人々に対し、心からの祈りと揺るぎない連帯を捧げます。私たちは、生命の神聖さと人間の尊厳を尊重することを基盤に、幸福の分かち合いを促進する平和の文化に向けて、祈り続け、諸宗教で取り組むことを再確認します。

新春学習会

パネルディスカッション

『人道危機において、国際機関が宗教者に期待すること』をテーマに、新春学習会が1月25日、立正佼成会法輪閣（東京・杉並）でオンラインを併用して開催された（2月号に掲載）。

基調講演に続いて行われたパネルディスカッションでは、コーディネーターの山本俊正理事（元関西学院大学教授）が、人道支援の歴史に言及。「人道支援の思想的な背景として、欧米ではキリスト教の影響が非常に強くあった。そういう意味では、宗教と人道支援は深いかわりがある」と述べた。

パネリストの黒住宗道理事（黒住教教主）は、黒住教の本部がある岡山県で1996年に諸宗教者らと共に立ち上げた人道援助宗教NGOネットワーク（RNN）の活動内容などを紹介。「グローバルに、ローカルに活動を展開しているが、大事なことは地域に信頼される存在であるということだ」と語った。

同じくパネリストで女性部会の本多端子委員（全日本仏教婦人連盟理事）は、同婦人連盟の活動について詳述。その中で、「仏教は柔和忍辱を説いている。この精神から生まれる譲り合いの心は、平和や和睦の道に通じるもの」と述べた。また、「戦争、差

別、貧困など負の遺産を子どもたちの未来に残してはならない」と訴えた。

パネリストの大谷英玄理事（北法相宗音羽山清水寺成就院住職）は基調講演を受け、「人道支援についての話の中で慈しみの実践、倫理・道徳観という言葉が出てきたが、こうした人としての普遍的価値というものを、われわれ宗教者もつと内外に伝えていかなければならない」と語った。そして、人道支援に関心を持っていない人たちに、その問題をどうしたら喚起できるかと、基調講演者の榛澤祥子氏（赤十字国際委員会 IICRC 駐日代表）と伊藤礼樹氏（国連難民高等弁務官事務所 UNHCR 駐日代表）に質問。

これに伊藤氏は、毎年 UNHCR が難民にかかわる題材の映画祭を開催していることを紹介し、「芸術を通して少しでも難民について触れてもらっている。また、日本にいる難民と日本の大学生がグループを作って異なる価値観や考え方を共有している」と実例を挙げた。

榛澤氏は、「人道支援というものが、崇高なもの、特別な人たちが行っているものというふうに見える人たちがいるかもしれない」としたうえで、人道支援とは、目の前で転んだ人がいたら、助けたいと思う普通の行動であると述べた。また、SNS の活用も有効なのではないかと語った。

平和研究所第8回研究会

ホアン・マシア所員

平和研究所の第8回研究会が2月26日、専門メディアセンター（東京・杉並）でオンラインを併用して行われた。ホアン・マシア所員（元上智大学教授）が『対決（Discordia）から調和（Concordia）へ』自己脱出（salir de sí）から自己発見（encontrarse）と自己超越（trascenderse）へ』と題して発表した。

はじめに、古代ローマの歴史家であるガイウス・サルステイウス・クリスピスの「小さな物も調和・平和によって大きくなる。最も大きな物も、不調和・対決によって滅びてしまう」という言葉を引用し、「人間は、理性的に考える能力を持っているので戦争を避けて平和をつくれると言いたい。しかし人間は、理性的な能力を非理性的に使用して、残酷な行動を起こす」と人間の矛盾性を指摘。人間には「表面的な自分」と「深みの次元にある本来の自分」があり、「本来の自己への問いを追求していくことで、平和をつくり出す無限の命の呼びかけが聞こえ、自他を超越する何者かのほうから平和の保障が得られるのではないか」と語った。また、日本の哲学者・湯浅泰雄やスペインの哲学者・ミゲル・デ・ウナムーノの言葉を紹介しながら「異文化間の衝突と出会い」などに言及した。

新役員紹介

新たに就任したWCRP日本委員会の役員を紹介する

監事

利根康教（寒川神社宮司）

1949年（昭和24年）、愛知県・篠島の社家に長男として生まれる。皇學館高等学校（三重県伊勢市）を経て、國學院大學（東京都渋谷区）文学部神道学科卒業後、72年に全国唯一の八方除の守護神・相模國一之宮寒川神社へ奉職。09年から同社宮司を務め、神宮評議員・神社本庁評議員・神奈川県神



利根監事

社庁副庁長・神奈川県宗教連盟理事長などを歴任し、18年に神職身分特級に昇級、現在に至る。

理事

熊野隆規（立正佼成会理事長）

1958年、福井県生まれ。一般企業を経て、89年に立正佼成会に入職し、青年部青年教務課、青年本部を経て、2000年に同本部長。2004年に立川教会長に着



熊野理事

任し、その後、教育グループ次長、教務グループ次長、時務部長、教務部長を歴任した。

その間、15年に理事に就き、19年に理事に再任。23年12月より現職。教団の要職を歴任する間、教団諸行事への出席、国内外の来訪者の対応にあたるほか、立正佼成会一食平和基金運営委員長、WCRP日本委員会の東日本大震災復興支援タスクフォース運営委員なども務めた。

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し新しい熟語を作ります。

輝責（きせき）

2月に開催した第2回東京円卓会議は、多くの運営スタッフがそれぞれ責任をもって役割を担っていました。その姿はとても輝いていて、円卓会議の成功はそんな奇跡の集まりがあったからなのではないかと思いました。

WCRPの活動

《3月》

- 4日 気候危機タスクフォース第3回会合（オンライン）
- 5～6日 人身取引防止タスクフォース現地学習会並びに祈りの集い／第3回会合（埼玉・大恩寺ベトナム寺院）
- 7日 第5回総合企画委員会（オンライン）
- 7日 女性部会第5回会合／現地学習会（鎌倉・アルペなんみんセンター）
- 7～8日 青年部会語り＆第4回幹事会（大阪・服部天神宮／ホテルアイボリー）
- 9日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」森の整備（埼玉・所沢）
- 14日 第47回理事会／平和大学講座（京都・浄土宗事務庁／オンライン併用）
- 18日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」地権者との懇談会（埼玉・所沢）
- 23日 日本パグウォッシュ会議 第4回公開講座（共催・オンライン）
- 29～30日 平和研究所合宿／所員会議・研究会（静岡・熱海）

掲載内容の無断転載を禁ず。